

平成 30 年度事業報告書

平成 30 年 7 月 1 日から令和元年 6 月 30 日まで

特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂

1 事業の成果

平成 30 年度は、これまでの活動から見えてきた課題解決に向け、『つながる』『つなげる』『仲間と拓く』新潟の防災教育を、みな（学校・地域・家庭・行政・企業・NPO 等）で創るふるさと共有にする」を 3 か年の中期ビジョンとして掲げ、その実現に向けて以下の①から③を重点事業方針として様々な活動に取り組んだ。

- ① より一層の連携・協働を進め、共感の輪を「ふるさと共育化」への推進力にする
- ② 地域の教育力を結集し、学校防災教育をまちで支える仕組みを創る
- ③ よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創る仲間を増やす

①、③の具体的な活動としては、多種多様な団体や民間企業、行政に対し、〇〇×防災のイベントや企画等の提案やサポートを行った。現在、子育て支援団体・民間企業と連携し、「子育て×キャンプ×防災」のイベントを計画中である。昨年度から連携している民間バーベキュー施設との「バーベキュー×防災」の取り組みは、活動の様子をホームページで見た子ども会から依頼を受け、イベント講座として継続している。楽しみながら親子で体験できる美味しい講座の満足度は非常に高い。その他、「福祉×防災」「食育×防災」「国際理解×防災」といった活動にも取り組み、次年度以降も継続が見込めている。

長岡市の助成事業を活用した親子防災イベントを開催し、楽しみながら学べる災害食づくりの指導者の育成に取り組んだ。事前研修及びイベント当日は講師補助を担う OJT 研修の計 2 回を行った。その結果、今後はママサークルの事業として講座を開催していくことになり、災害食づくりを広げていく新たなチャンネルを開拓することができた。中には子ども食堂を運営する方もおり、食堂で皆が集まって食事を摂る機会を活かして実施したいとの声も聞かれた。様々な人が様々な場面で防災について考えたり、体験できたりする機会の日常化を目指し、次年度もイベント等を切り口とした新たなチャンネルの開拓と人材育成に取り組む予定である。

こども防災未来会議 2018 では子どもたちが考え、提案・発信した「防災に関心のない人に防災の大切さを伝える工夫」を実現するために様々な団体・企業との調整を行った。その結果、「テレビ×防災教育」による特別番組の制作を実現することができた。民放テレビ局の協力により、平成 31 年 2 月に「こども防災未来会議 2018 特別編」を開催し、子どもたちが学校・学年を超えたグループで伝えたいメッセージとその伝え方を考え、新潟県内全域に発信する機会を実現することができた。次年度のこども防災未来会議も提案・発信で終わりではなく、その後の提案の実現にも力を入れ、「よりよい未来を子どもと一緒に創るプロジェクト」であることをより強く社会に発信していく。

②の活動としては、長岡市立小・中学校 82 校に設置された防災教育教材「長岡市防災玉手箱」の教材の差し替えを地域の方等が学校に訪問して行うことをきっかけに、学校と地域が顔の見える関係性を築いていき、多忙な学校における防災教育を地域一体で支えていく体制づくりを進めている。

3年目となる学校訪問は継続の成果が見られつつある。地域と連携した防災教育に取り組みたいが、様々な事情で断念をしていた学校から「地域の大人の声を子どもにも聞かせたい。」「地域をフィールドにした活動に協力してほしい。」「地域とつながる機会や場を調整してほしい。」といった依頼が前年度と比較し増加した。今後も学校教育の理解者であり、学校防災教育を応援できる地域人材の育成とマネジメントに力を入れていく。また、学校と地域のコーディネート役を当法人が担いながら、地域一体で学校防災教育を支えていく持続可能な防災教育体制のモデルケースを形にし、他市町村・他県へ水平展開をしていきたいと考えている。

総括として、平成30年度はこれまで接点の無かった多種多様な人や団体と出会い、思いを共有し、協働につながる機会に恵まれ、防災教育に取り組む人や学校、団体を応援する・したいと思う人や団体と出会い、いくつかの地域で小さな応援団をつくっていきそうな兆しが見えた。

また、「取り組みに関わりたい！自地域でもやってみたい。」という問合せも増加し、これまで積み重ねた点的な活動が少しずつ、点そのものを大きくしたり、新しい点を生み出したりしている。

次年度もニーズに寄り添う伴走型の支援活動とタイムリーかつコンスタントな情報発信を継続していき、人とかわり、地域に学ぶ・郷土愛を深める防災教育の推進に注力していく。

同時に多種多様な人や団体と出会い、活動に巻き込み、皆で創るふるさと共育を持続・発展可能にしていく仲間づくりと仕組みづくりにも力を入れていく。

2 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(単位：千円)

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
学校防災教育の支援事業	①ふるさと新潟防災教育推進事業(学校サポート)	年度当初から年度末	①県内全域	3人	新潟県内の小・中学校、高等学校の教員及び児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	2,085
	②長岡市防災教育コンテンツ学校サポート事業等		②長岡市	6人		3,362
	③新潟市「防災教育」学校・地域連携事業		③新潟市	3人		2,670
	④新発田市内小学校の防災キャンプサポート		④新発田市	3人		651
	⑤西蒲区防災キャンプ事業		⑤西蒲区	3人		546
	⑥その他事業		⑥県内全域	3人		360

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
地域及び家庭の防災教育支援事業	①新潟県立白根高等学校における防災教育支援業務	年度当初から平成31年3月まで	①新潟市	2人	新潟県内外の未就学児、小・中学校、高等学校の教員及び児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	273
	②その他防災教室	年度当初から年度末	②県内全域	4人		244
防災教育の推進に関する交流・イベント事業	①親子で体験イベント「あそんでまなぼうさい」	平成31年3月	長岡市健康センター	5人	長岡市内小学校3年生から6年生の児童生徒とその保護者	181
安心安全なまちづくり及び地域づくり支援事業	①地域防災訓練の支援や防災講話	年度当初から年度末	県内全域	3人	新潟市西蒲区役所及び新潟県内の地域住民等	283
	②新潟市北区防災士の会スキルアップ事業	平成30年11月から年度末	新潟市北区	3人	新潟市北区役所及び新潟市北区防災士の会	365
よりよい未来を創る事業	①よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創るプロジェクト「こども防災未来会議2018」の開催及び県内3箇所での「防災かべ新聞展示会」	平成30年7月1日から平成31年3月31日まで	長岡震災アーカイブセンター きおくみらい、県庁他	16人	新潟県内の小・中学校の教職員と児童生徒、保護者、地域住民、防災・教育関係団体等	139
その他事業	①平成30年7月豪雨の被災地調査・支援	平成30年7月26日から7月29日まで	広島市	2人	広島市坂町内の避難所	154

参考資料1 サポート実績一覧

学校（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）及び教育委員会等

○防災教育等に関する打合せ・相談、講師、研修会等 189校 18団体 延べ378回

新発田市教育委員会 中央公民館	燕市教育委員会 学校教育課	新発田市青少年宿泊施設 あかたにの家
胎内市教育委員会 学校教育課	長岡市教育委員会 学校教育課	長岡市教育センター
長岡市中央公民館	長野県上田市中央公民館	新潟県少年自然の家
新潟県教育庁 下越教育事務所	新潟県立教育センター	新潟市教育委員会 学校支援課
新潟市教育委員会 亀田地区公民館	新潟市教育委員会 地域教育推進課	新潟市教育委員会 中央公民館
小千谷市立東小千谷小学校	小千谷市立千田小学校	柏崎市立北条小学校
新発田市内の全 19 小学校	新発田市立佐々木中学校	新発田市立猿橋中学校
新発田市立紫雲寺中学校	新発田市立第一中学校	新発田市立東中学校
上越市立稲田小学校	上越市立黒田小学校	上越市立富岡小学校
関川村立関川中学校	燕市内の全 20 小・中学校	長岡市立の全 82 小・中学校
長岡市立総合支援学校	新潟県立白根高等学校	新潟県立正徳館高等学校
新潟市立青山小学校	新潟市立阿賀小学校	新潟市立味方小学校
新潟市立味方中学校	新潟市立五十嵐小学校	新潟市立石山中学校
新潟市立臼井小学校	新潟市立臼井中学校	新潟市立内野中学校
新潟市立漆山小学校	新潟市立越前小学校	新潟市立大野小学校
新潟市立潟東小学校	新潟市立潟東中学校	新潟市立金津小学校
新潟市立金津中学校	新潟市立葛塚小学校	新潟市立葛塚中学校
新潟市立黒埼中学校	新潟市立小合小学校	新潟市立小合東小学校
新潟市立小合中学校	新潟市立光晴中学校	新潟市立小新中学校
新潟市立小須戸中学校	新潟市立小瀬小学校	新潟市立小針小学校
新潟市立小針中学校	新潟市立白根小学校	新潟市立白根北中学校
新潟市立白根第一中学校	新潟市立新関小学校	新潟市立月潟小学校
新潟市立月潟中学校	新潟市立中之口中学校	新潟市立新津第五中学校
新潟市立新津第二小学校	新潟市立新津第二中学校	新潟市立白南中学校
新潟市立東青山小学校	新潟市立巻北小学校	新潟市立巻西中学校
新潟市立巻東中学校	新潟市立巻南小学校	新潟市立松野尾小学校
新潟市立結小学校	新潟市立坂井輪小学校	新潟市立真砂小学校
新潟大学教育学部附属長岡小学校	新潟大学教育学部附属長岡中学校	見附市立今町小学校
見附市立見附小学校	三条市立第四中学校	教員研修団体ときわ会
新潟県生活科・総合的学習研究会	災害多発時代の教育研究会	

地域

○地域防災や防災教育の相談、講師、イベント、研修会等 35 団体 延べ 52 回

- &mama つなぎ（親子防災講座 サバイバルクッキングの研修実施）
株式会社グリーン産業（親子防災キャンプの企画相談・サポート）
国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所（水防災教育プログラム検討支援）
国土交通省北陸地方整備局信濃川下流河川事務所（水防災教育プログラム実践支援及び資料提供）
新発田市市民まちづくり支援課（新発田市内在留外国人向け防災講座・避難所体験の企画提案）
中沢子ども会（親子遠足での体験型防災講座の企画・運営 サバイバルクッキング・防災グッズづくり）
長岡市栖吉コミュニティセンター（学校防災教育に協力していただける地域人材の紹介・相談）
長岡市公立保育園 園長部会（保育士向け防災講座 洪水災害に備える避難確保計画の作り方）
長岡市子育ての駅 すこやか（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）
長岡市子育ての駅 ぐんぐん（母子向け防災講座 洪水・津波災害から自分と子どもを守る）
長岡市子育ての駅 たんぽぽ（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）
長岡市子育ての駅 なかのんひろば（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）
長岡市子育ての駅 にこにこ（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）
長岡市子育ての駅 にじの子広場（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）
長岡市子育ての駅 のびのび（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）
長岡市子育ての駅 わくわく（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）
長岡市子育ての駅 やまっこ（母子向け防災講座 避難所の説明・災害時の備え）
長岡市役所和島支所 地域振興課（和島・与板地域の小学生を対象とした交流事業支援）
新潟県魚沼地域振興局健康福祉部 魚沼保健所（災害時食のセーフティーネット検討会）
新潟県土木部河川管理課（水防災教育プログラムの検討支援、平成 31 年度以降の事業相談）
新潟県長岡地域振興局健康福祉環境部 長岡保健所（食の備えを切り口とした防災教育支援）
新潟市内野コミュニティ協議会（地域防災訓練に関する相談・資料貸出）
新潟市金津コミュニティ協議会（地域と小・中学校合同防災訓練のコーディネート）
新潟市北区役所地域総務課（新潟市北区防災士の会スキルアップ事業の企画・運営）
新潟市葛塚東小学校区コミュニティ協議会（地域と中学校合同防災学習及び訓練の打合せ・講座講師）
新潟市小合地域コミュニティ協議会（防災訓練の相談・サポート）
新潟市小須戸コミュニティ協議会（地域と中学校合同防災学習及び訓練の打合せ・講座講師）
新潟市白根地域コミュニティ協議会（冬まつりでの子ども向け防災講座）
新潟市西蒲区健康福祉課（避難行動要支援者や用配慮者名簿作成の啓発講座）
新潟市西蒲区地域総務課（西蒲区防災キャンプ事業の企画・運営）
新潟市南区役所地域総務課（南区総合防災訓練のサポート・講座講師）
兵庫県立大学院大学院減災復興政策研究科（講義）
与板 中川清兵衛記念 BBQ ビール園（親子防災講座 サバイバルクッキング・防災グッズづくりの体験）
（公社）中越防災安全推進機構（ふるさと新潟防災教育推進事業のサポート）
（公財）山の暮らし再生機構（兵庫県立大学大学院の視察対応）

防災の知恵 祖父母と学ぶ

浦瀬小 水害想定し特別授業

18.7.6

7・13水害から14年になるのを前に、水害から身を守る方法を学ぶ特別授業が4日、長岡市浦瀬小で開かれた。3年生18人が祖父母と共にビニール袋で雨がっぱを作るなどして、防災意識を高めた。



児童がビニール袋で雨がっぱを作り、防災意識を高めた特別授業＝4日、長岡市浦瀬町の浦瀬小

小中学校に防災士らを派遣する市の事業を活用し、河川の氾濫が起こりやすい時期に、水害時の行動を確認してもらうのが狙い。児童は7・13水害で決壊した堤防などの写真を見ながら、水害が発生する恐れがある場合は早めに避難することや、テレビなどで避難情報を得ることの大切さを学んだ。雨がっぱのほか、避難所で利用するスリッパを新聞紙で作り、水害への心構えを新たにしたり。

安部豊さん(9)は「もし

長岡市防災教育コンテンツ・学校サポート等運営委託事業

新潟日報 2018/7/6 掲載

避難することになったら、たい。水害が起きたら家族と離れないようにしたい」と作った雨がっぱを使ってみに決意を掛け、みんなが逃げ話した。



地震時の対応を確認

南区

■ 野ノ木新田の白根北児童館で地震を想定した防災訓練が行われた。写真Ⅱ。児童ら約30人が避難の流れを確認し、災害時に自分の身を守る方法を学んだ。同館は災害などに備える訓練を年に数回実施している。より多くの児童に体験してもらおうと、初めて夏休み中に実施した。先月27日の訓練では、児童らは館内放送で地震の発生を知ると、頭を両手で守り、机の下で待機。別室に移動した後、点呼を取った。防災士の資格を持つ職員に、ガラスの破片などから身を守るスリッパとすきを新聞紙で作る方法を教えてもらったほか、水で炊けるアルファ米で握ったおにぎりを試食した。大通小5年の西辺拓磨君(10)は「訓練で覚えたことを家族にも伝えた」と話した。

新潟市「防災教育」学校・地域連携事業

新潟日報 2018/8/7 掲載



燕市教育委員会長善館学習塾 防災キャンプ 新潟日報 2018/9/8 掲載



新潟市「防災教育」
学校・地域連携事業

新潟日報 2018/11/23 掲載



新潟市西蒲区

いきいきお達人プロジェクト

新潟日報 2018/12/12 掲載



ほうさい甲子團

燕・小池中、奨励賞に

18.12/26 地域ぐるみで 防災訓練に力

先進的な防災教育を表彰する「ほうさい甲子團」で、段ボールを使った避難所用品作りを表彰する小池中の生徒

燕中の小池中(常盤徹校長)が中学生部門の第3位に当る奨励賞を獲得した。「中学生だからできることがある」という自覚を持って、地域の防災訓練などに積極的に参加したことが評価された。

ほうさい甲子團は兵庫県などが毎年開催している小・中・高・大学の4部門があり、今年の中学生部門には引校・団体が応募した。自主性、地域性などの観点で審査され小池中は宮城県気仙沼市の隣上市と並んで奨励賞を獲得した。県内から

は唯一の入賞だった。小池中は2015年度から地域との絆を育む「希望プロジェクト」を進めている。「ゴミ拾いや講演会など多彩な活動の一つとして、16年度から地元の防災訓練に参加している。

今年9月の訓練では、3年生が避難所での名簿作りなどを手伝い、地域住民に段ボールで作れる非常用品を紹介した。

生徒たちは段ボールトイレやベッドなど避難所生活に役立つ道具をその場で作って見せ、「身の回りにある段ボールで誰でも作れます」と呼び掛けた。3年生の川崎朱莉さん(15)は「地域の人々がすぐ興味を持ってくれた。みんなで一つになった気がした」と振り返る。

3年生の星野司さん(15)は防災訓練で「高齢者の比率が大きくて、私たちが積極的にやらないといけない」と肌で感じたという。愛

ふるさと新潟防災教育推進事業

(学校サポート)

新潟日報 2018/12/26 掲載



UX 新潟テレビ 21「ナマ+トク」
2018/9/7、2018/9/11、2019/3/1 出演